

カトリック

広島教区報

No. 94

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区幟町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

安らかに繰返さぬと終戦日

カトリック広島司教区長

前田万葉司教



今年も六十八回目の原爆忌、終戦日を迎えました。とくに、広島教区は、一年中が平和のために祈り考え行動しているといつても過言ではないと思います。元旦の世界平和祈願ミサはもちろん、ヨハネ・パウロ二世来広平和アピール記念主日ミサが二月二十四日に、翌二十五日は当日ミサがありました(平和へと責任をとる二月かな)。五月三日は、信教の自由と人

権、そして、平和憲法を守る意向を込めた乙女峠祭りが行われました(乙女峠祭りに平和マリア像)。そして、八月は、四日に山口で、アジア太平洋地域スカウトジャンボリーの平和祈願ミサ(仕え合って仕合わせになろうサマージャンボリー)、五日と六日は、広島平和行事が盛大に執り行われたのであります(九条は世界の掟原爆忌)。九日にも長崎原爆記念平和行列とミサ(武器に代え被爆マリアの原爆忌)、十五日は終戦記念日・聖母マリアの被昇天平和祈願ミサをささげて(アヴェマリア皆十字切る終戦日)、日本カトリック平和旬間を終えました(夏が来るヒロシマナガサキ聖マリアⅡ二〇一三

万葉賞Ⅱ彦島・長江夫親子)。九月は八日に、島根県・三刀屋で恒例の永井隆博士追悼平和祈念ミサがありました(平和をとっっぱも一役祈る秋)。十月は、二十一日に立正佼成会との合同平和祈願集会有り、二十三日には世界連邦岡山県宗教者大会での平和祈禱会がありました。そして、十一月二十四日は、信仰年と教区創立九十周年閉年行事を行い、教区創立百周年へ向けての新たな出発点とし、「平和の使徒となるう」の再発見を呼びかけたと思います。さらに、十二月になると、クリスマスや、それを前後して、平和祈願が教区各地で執り行われることになるでしょう。



信仰年閉幕行事ポスター

信仰年閉幕行事

「信仰の光」

～信じる喜びを伝えよう～

場所：世界平和記念聖堂(幟町教会)

日時：2013年11月24日(日)
10:30～

内容：講演会「信仰の光」
デ・ルカ・レンゾ神父
(日本26聖人記念館館長)
信仰年の取り組みの発表
信仰年閉幕ミサ
(王であるキリストの祭日)

前田万葉司教メッセージ
教区の動き・「主和の輪」二十周年・平和行事
重要文化財世界平和記念聖堂関連
東日本大震災支援関連・JICA R.M.広島
地区・海峡からの風・施設・青少年・ひと粒
一面
二～四面
五面
六～七面
八～十面
和解を!ということではないでしょうか。子どもたちから教えられます。「センソウをやってはだめだぜったいに」(二〇一三 園摂理の家・YF)。
万葉賞・祇園・大川貴哉)。「ゴメンネ」とあやまる勇氣平和道」。(二〇一三 万葉賞・光の

教区の動き

平和の使徒推進本部

「信仰の光」 〜信じる喜びを伝えよう〜

来る十一月二十四日(日)王であるキリストの祭日に、カトリック教会は信仰年の閉幕を迎えます。広島教区では、教区創立九十周年の記念にあわせてこの歩みを続けてきましたが、この信仰年閉幕ミサを教区行事として、閉幕という消極的なことではなく、「信仰の光」〜信じる喜びを伝えよう〜というテーマで、世界平和記念聖堂(職町教会)を会場にして行うことになりました。

創立九十周年を記念して、津和野の殉教者の列聖運動が始まりましたが、この津和野の殉教者のことをもう少し知ってもらおうと、日本二十六聖人記念館館長のデ・ルカ・レンゾ神父をお迎えして講演会を計画しました。さらにこの信仰年で取り組んできたことの発表を各地区から報告し

ていただく時間も取っています。

五月の津和野の乙女峠祭で創立九十周年の開始を祝い、そこからマリア像が二方向へ分かれて、各小教区に巡礼され、祈りの集いを進めていきましたが、信仰年の終わりのこの日に、カテドラルで再び一緒にになり、巡礼を終えることになりました。

午後二時半から、前田司



教司式の閉幕ミサが行われますが、この中で、自分の教会をしつかり見つめてもらおうと企画した絵画・フォトコンテストの表彰も行います。また召命促進委員会から、「予備神学院」の開始も宣言される予定です。

前に教区報でお知らせしていた、前日(二十三日)のシスター渡辺の講演会は

中止となりましたが、せっかくの機会に、前夜祭として集まって語ろうというグループも出てきそうで、夜には一緒にバーベキューを準備したいと考えています。

王であるキリストの祭日であり、各小教区でのミサ等があると思いますが、できるだけたくさんの方々に集まっていたいただき、信仰の光を輝かせることができたいと思います。

「主和の輪」 二十周年に感謝

聴覚障がい者と健聴者の集いである「主和の輪」は、今年九月に創立二十周年を迎えました。二十年の長い間、この会を支えてくださった多くの方々に深く感謝いたします。

九月十六日敬老の日、二十周年記念として「前田司教講演会」を広島カトリック会館で開催しました。聴覚障がい者三名他、三十数名の参加者でした。司教様は力障連顧問司教として、またご自分のご病

気の体験を通して、「障がいをどのよう受け止めるかで自分の生き方が決まり、(障がい者の)力強く生きる姿が福音宣教になる」とお話しされました。

七月の岡山教会での「主和の輪」第二十一回総会のミサの折、服部神父が「主和の輪」の継続が危惧されている状況をお話しになりました。聴障者も会員も共に高齢になり、

この会の運営が困難になってきたからです。しかし総会での話し合いで、聴障者が継続を強く希望されていることが分かり、その思いを尊重したいと存続の道を検討した結果、来年度以降は健聴者が会長となって続けることになりました。司教様は講演の最後に「依頼されたテーマは『聴覚障がい者に望むこと』だったと思いますが、私が望むことは会を継続していただきたいこと」と話され、このお言葉を励みにし



て私達一同、気持ち新たに二十一年目を歩み出そうと考えております。

創立時の会長であった桐田信正さん(岡山教会)が二月に帰天され、広島教区内のカトリック信者の聴障者が本当に少ないという現実の中ですが、手話ミサや通訳者の派遣等の活動は続けて行きたいと思っております。今後とも皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(主和の輪事務局)

安藤純子

真実を見抜こう 核と改憲 平和行事

戦後六十八年目の夏、「平和行事二〇一三『真実を見抜こう 核と改憲』」が、世界平和記念聖堂で、八月五日（月）・六日（火）と九日（金）の日程で行われました。今年も

ジョセフ・チェノットウ駐日教皇庁大使、バチカンからは、教皇庁正義と平和評議会議長ピーター・タークソン枢機卿、日本の司教団、そして全国各地から平和を祈る多くの巡礼者を迎え盛大に行われました。戦前に戻りつつあるのではな

いかと言われている昨今、平和について考え、祈り、行動することが、キリスト者としてどれほど求められているか、改めて問われる行事となりました。

八月五日（月）十三時から大聖堂で行われた基調講演では、アメリカ人の詩人アーサー・ビナード氏を迎えし、「アメリカの『原爆船』と『無知』」という

タイトルでお話し頂きました。アメリカでは、「原爆は戦争を終結させるために必要だった」「原爆は正しかった」との定説があるが、その定説を、原爆の型の違いから否定。広島

原爆はウラン型で、わずか三日後の長崎の原爆はプルトニウム型という型の違いは、膨大な資金をつぎ込んで開発した原子爆弾を落とすことが目的であって、定説は建前であり、大きな



平和祈願ミサの様子



アーサー・ビナードさん

ペテンだったということだ。また、戦後、この原爆の技術は、『原子炉』という名の「爆抜きじりじり原爆」として世界中に拡散された。つまり原爆と原発は表裏一体であるということ、は、明らかである。体制が発信する情報を読み解くために、わたしたちは「真実」を見る目を養うことが必要であることを訴えられました。



左から、三末名譽司教、チェノットウ駐日教皇庁大使、タークソン枢機卿

柳沼さん（NPO法人「福島やさい畑」復興プロジェクト）理事長の「福島証言」、東条さん（フリージャーナリスト）の「上関の原発建設反対運動」、被爆をテーマとした自主制作映画「運命の背中」上映などが、各会場に分かれて行われました。映画「運命の背中」では、会場となった地下聖堂には、溢れんばかりの参加者でした。NHKアナウンサーである出山知樹監督が、取材を通して出会ったヒロシマを映画で表現した作品。音楽は交響曲「HEROSHIMA」の作曲者、佐村河内守氏。すばらしい音楽が、原爆を生き抜いたご夫婦の物語に余韻を残す作品となっていました。映画上映後、制作プロデューサーで監督の奥様でもある出山ひさ子さん（祇園教会）は、「多くの人たちが善意で関わり、何度も奇跡とも思わせる経験を経て完成した作品なので、たくさんの人にみてもらい、ヒロシマを考えるきっかけにしたい。」と話されました。

十七時半からは、平和記念公園供養塔前でカトリックと日本聖公会の信者約五百人による祈りの集いを行い、引き続き豪雨に近い大雨の中、参加者全員で世界平和記念聖堂まで約1.5キロメートルの道のりを平和行進しました。

十九時からの平和祈願ミサは、前田司教の主司式、タークソン枢機卿、チェノットウ駐日教皇庁大使、司教団、司祭団の共同司式で行われ、約九百人が参列しました。

当日の様子は、カトリック新聞八月十八日号の一面で大きく報道されました。

平和俳句 万葉賞 二〇一三

昨年に続き今年も平和行事二〇一三の企画として、広島教区内で平和の俳句を募集しました。優秀俳句は以下の通りです。

《大人の部》

- ① 平和説く被爆司祭や蝉しぐれ (観音町) 冲山光璋
- ② 鳴り響く平和の鐘に蝉しぐれ (松江) 佐野卓司
- ③ 学童の平和学習緑陰に (祇園) 松本弘子
- ④ 噴水を語り部の声突き抜ける (祇園) 杉本友利
- ⑤ 朝まだき媪ぬかずく原爆忌 (廿日市) 河原典子
- ⑥ 小さき手の大きな祈り原爆忌 (廿日市) 熊谷純
- ⑦ 汗涙平和の列に寄り添いて (宇部) 厚母至真子
- ⑧ 諍いを捨てて見上げる銀河かな (三原) 椎野正進
- ⑨ 兵たりし昔語らず薔薇咲かす (廿日市) 平田ユリコ
- ⑩ 囁りの平和平和と被爆川 (廿日市) 平田ユリコ
- ⑪ 夏が来るヒロシマナガサキ聖マリア (彦島) 長江夫紀子
- ⑫ 原爆忌九条捨ててなるものか (岡山) 津田茂樹

《子どもの部》

- ① 「コメネ」とあやまる勇氣平和道 (光の園摂理の家) 小六 女子 Y F
- ② 命とは一人に一つまもらなきゃ (防府) 岩本みゆき
- ③ センソウをやつてはだめだぜつたいに (祇園) 大川貴哉
- ④ 汗がでる八月六日涙でる (光の園摂理の家) 小六 女子 Y I
- ⑤ せみだつて戦争なんかきらいだよ (光の園摂理の家) 小六 女子 E K
- ⑥ 言葉だけ平和の誓い意味がない (光の園摂理の家) 小六 女子 Y I
- ⑦ 千羽づる折って平和を願おうよ (祇園) 小田敦也
- ⑧ せかいじゅうの人となかよくなりたいな (防府) 石川花恵
- ⑨ 入道雲平和の雨を降らせようよ (光の園摂理の家) 小六 男子 T A

《中学生の部》

- ① 七夕にわたしは書くよ平和とね (秋光塩学院) 齊藤彩華
- ② クリスマス世界の平和祈ろうよ (秋光塩学院) 篠原七海
- ③ ゆりの花平和のためにささげます (秋光塩学院) 古澤慶一
- ④ 若葉出ることの幸せ顔洗う (秋光塩学院) 中村椿花

選者句

安らかに繰返さぬと原爆忌
九条は平和の掟終戦日

選者講評：前田万葉司教

大人の部①②③④句：あの被爆司祭の貴重な証言が聞けなくなったが、平和の鐘と学習と語り部は時空を突き抜けていつまでもどこまでも。

⑤⑥⑦⑧⑨句：「過ちは繰り返しませぬから」と小さくても寄り添ってより大きく広く平和のバラを咲かせましょう、しかしいつかは語ってください。

⑩句：広島島の鳥も人間もそして川までも「Peace! Peace!」と全世界に発信だ。⑪句：中七が字余りだけど平和へのインパクト大なり。⑫句：これぞ結論です。「無季」

可のため？優秀作豊富だった子どもの部①句：「ケンカもセンソウもぜつたいだめだ」と言葉だけでなく汗と涙で叫びました。

⑦⑧⑨句：神通力みたいな千羽づるさん、入道雲さん、世界中の人となかよくなりたいのです。中学生の部①②③句：機会あるごとに平和のために祈り働きました。④句：平和な思春期です。⑤句：もう否だ伝え聞かぬあの夏の瞬間。

*応募総数

大人の部 二百十四句 (八十三名)
子どもの部 七十九句 (三十二名)
中学生の部 四十一句 (二十三名)

長崎巡礼へ参加しました
8月9日〜10日
内藤悦子(福山教会)

「前田司教様と行く長崎巡礼」のチラシが目につき、行程表に出身の今村教会(ミサ)があったので即申し込みました。

今村教会は鉄川与助さんの設計によるレンガ造りの二つの塔があり、幼い頃から教会を見ながら育ち、昔は村全体がカトリック信者でした。数年前まで床のワックスがけを信者が行っていました。今でもステンドグラスの光が反射するぐらい光っています。

大刀洗平和記念館は旧飛行場跡に建てられています。当時は、東洋一の飛行場でゼロ戦の飛行隊が飛び、多くの人が亡くなり、二度と戦争は行わないように！の願いをこめて平和学習のために数年前に建てられたようです。

カトリックセンターで早めの夕食をとり、六時から平和公園で平和の祈りの後、被爆マリアを担いで松明行列で浦上教会へ行きま

した。平和祈願ミサが行われ九時過ぎに終わりました。

翌朝六時のミサで広島巡礼団の紹介があり、前田司教様は、「長崎と広島は同じ被爆地であると同時に長崎からの流配で津和野、萩、広島、福山、松江、鳥取で殉教されました。長崎と広島は繋がっています。」と説教されました。

帰路は、福岡県の星野村で今も燃え続けている「原爆の火」の前で平和を祈願し、秋月へ行きました。黒田官兵衛がキリシタン大名として活躍した時代は信徒数が二千人位いたそうです。

本籍地が長崎で墓もあり大好きな長崎という気持ちで参加しましたが、本当に平和について真剣に考えさせられた巡礼でした。



松明行列、浦上天主堂

重要文化財

世界平和記念聖堂耐震調査着手

一、はじめに

世界平和記念聖堂の耐震診断事業の現地調査が九月から始まりました。聖堂の「耐震診断と耐震補強案」と「保存・補修計画案」を検討するため、建築部材や構造、地盤の現況を調査します。聖堂の意匠やたたずまいを残しつつ耐震補強する難しい課題への挑戦です。文化財建造物の保存に詳しい四名の有識者からなる委員会を組織し、文化

庁や広島県、広島市と協議しながら、検討して行きます。具体的な工事は、二〇一五年度以降になる予定です。記念聖堂は、来年八月に献堂六十周年を迎えます。この間に三回の大規模な保存工事を行ってきました。この努力もあって、二〇〇六年七月に国の重要文化財（建造物）に指定されました。これまで以上に地域の文化遺産として、また、司教区創立九十周年を



世界平和記念聖堂



聖堂内部の天井と壁の劣化調査

迎えた私たちの信仰のあかしとして、司教座聖堂を保存して行く責務が課せられています。

二、教区の平和のシンボル

広島教区では一九九五年の被爆五十周年を契機に、今後の教区固有の召命を「平和のために働くこと」に定め、福音宣教のスローガン「平和の使徒となるう」を掲げました。これは、平和の巡礼者である聖ヨハネ・パウロ二世の「戦争は死です。この広島町の、この平和記念堂ほど強烈に、この真理を世界に訴えている場所は他にありません。」という広島への

思いを体現する教区だからです。元来、記念聖堂の鐘塔に刻まれた献堂記に「この聖堂により、常に伝えなければならぬものは、虚偽ではなく真実、権力ではなく正義、憎悪ではなく慈悲、すなわち人類に平和をもたらす神への道です。・・・」とあるとおり、献堂の使徒である被爆者・愛宮フサル神父の平和の理念を具体的な形で現す広島教区の平和の聖地となるべき聖堂です。八月の平和旬間の時だけでなく、祭壇にある再臨のキリスト像の前で祈りの時を過ごし、キリストの平和に倣って、私たちが平和の使徒となりますように。

三、保存献金のお願

世界平和記念聖堂保存活用委員会では、耐震・保存



←正門の耐震調査



モザイクの調査

世界平和記念聖堂募金振込先
口座名：カトリック広島司教区
口座番号：01320-3-109791
通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

修復工事への募金活動を行っています。次の口座または教区事務局で受け付けています。趣旨にご賛同頂き、ご協力ください。

東日本大震災支援

広島・山口金魚島げんきっ子クラブ実行委員会

玉野 正代

福島の子ども二十五名、 第二回夏休み保養キャンプ

二年半を過ぎても収束しない放射線漏れ。多くの福島県民が避難生活・不自由な日常生活を強いられ、出荷制限や風評被害を蒙っています。とりわけ幼い子どもを持つ親の悩みはいかばかりでしょう。

二十五名が参加しました。前半三日間は広島で学び、後半三日間は山口県周防大島(金魚島)の海で遊びました。保養キャンプの今回のテーマは「生きる力・愛」。

昨夏に続いて、八月十七日〜二十三日、保養キャンプを実施しました。高濃度放射線地域や避難地から四年生〜六年生までの男児十九名・女兒六名の計



カヌー体験

機に小さな絆で結ばれた福島・滋賀・広島・山口。受け入れ準備の中心を担ったの



平和記念公園

十七日遠路到着の夕食は「音楽の夕べ交歓会」、十八日は世界平和記念聖堂をステージに、十九日は広島平和記念公園をフィールドにして「いのちと平和」について学び合いました。移動日の二十日は宮島を楽しみ、二十一日は碧い海でカヌー体験、二十二日は船釣りと海水浴に興じました。二十三日、岩国錦帯橋空港を飛び立ち、子どもたちは多くの体験と友情、人々の慈しみをみやげに、たくましく日焼けして故郷へ戻りました。

は、NPO法人夢の郷テレサの家です。NPOは「現代社会の中で生きづらさ、暮らしにくさを感じている人々に、その人らしい社会生活を見出すよう支援する」ことを目的に設立し、引きこもり者の社会復帰支援、安心安全食品の宅配などを行っていますが、福島学童支援も目的に合致すると考えました。

支援者にはカトリック信者さんも多く、その繋がりでカンパ・労役ともに各教会・修道会・全国の信者さんから数多くの支援をいただきました。またエリザベト音大や広島学院、広島経済大の青年たちの協力によって、アンコールに沸くプログラムを提供すること

前田司教叙階二周年お祝い、司祭・修道者ダイヤモンド金銀祝(福山教会にて)



れた方々から感謝の言葉を一言つづいたいただきました。シスター春日からは、個人のためのお祝いではなく教会の出来事であり教会の感謝の集いだと実感しました。感動と心温まる感謝ミサでした。

ミサとお祝い会には約四百五十名の方々が参加され、お祝い会では、聖歌隊の素晴らしい歌声、神父様方々のギターと歌と踊りなど、時の経つのも忘れた楽しい時間でした。

信仰年に福山教会で感謝のミサと祝賀会を準備できましたこと、感謝いたします。

(福山教会 藤本洋子)

広島教区に前田司教様をお迎えして満二年になる秋分の日(九月二十三日)福山教会で、司教叙階記念およびダイヤモンド・金銀祝の感謝ミサとお祝い会が開かれました。司教様から喜びと感謝の言葉をいただきました。



福山教会でのミサの様子

感謝ミサでの説教は、ダイヤモンド祝を迎えられたヴァン・デ・ワール神父が力強いまた心に響くお話を。そして、福音朗読は銀祝を迎えられた野中泉神父、朗読は京嶋千早シスター。また、お祝を迎えら

広島司教区 堅信を受けられた方

(2013年 7月～9月まで)

おめでとうございます！

- ◆岡山教会 (7月 14日)
 マリア 佐野 恵津子 / ヨゼフ 武田 義春
 アンナ・エリザベト 江草 あんな
 アシジのフランシスコ 小川 武瑠
 ハンガーのエリザベト 小川 静流
 ヴィクトリア オカフォー・オリンピア・恵理香・ウゴンナ
 テレジア 加藤 りく穂 / ミカエル 小延 敦史
 ルカ 中西 海 / クリスティーナ 平松 英
 フランシスコ・ザビエル 福田 智久
 マリア 藤原 チェリーアイエカ / マリア・テレジア 榎谷 奈央
- ◆宇部教会 (7月 28日)
 ヨゼフ 今井 恭一郎 / エリザベト 今井 道子
 ドミニコ 村岡 岳政 / マシュー 筒井 寛之
 マリア・ベネディクタ 村上 敦美
 ヨセフ 村上 義高 / フランシス 安藤 和子
 フランシスカ 丸石 和子 / ヤコブ 丸石 勲 / マリア 飛弾 悦子
- ◆三篠教会 (9月 15日)
 マリア・セシリア 河原 京子 / マリア・モニカ 富重 理香
 ミカエル 山崎 翔悟 / ジャンヌ・ダルク 木村 和可奈
 フランシスカ 岡田 千佳 / マリア・ゴレッティ 木村 明香里
 クリスチーナ 井上 菜子
- ◆萩教会 (9月 22日)
 クララ 山下 あすか / マリア 軒名 優希
- ◆水島教会 (9月 29日)
 チート 山本 俊 / セシリア 山本 美紀
 マキシミアノ・マリア・コルベ 竹内 和哉

ができました。ロータリークラブや各地のNPO・お寺・神社・役場・地域また見知らぬ方々から多額のカンパや献身的なボランティアを頂きました。心から「ありがとうございます。心から」を申し上げます。来夏も実施します。今後とも広島の子どもたちにご支援をお願いいたします。

カンパは年中受け付けています。

カンパ振込先

加入者名：

広島・山口金魚島げんきっ子クラブ実行委員会

振込の場合：

ゆうちょ銀行 記号14630 番号6791481

郵便振替の場合：口座番号 00930-9-217464

広島司教区災害サポートセンター収支報告

(2011年 4月 1日～2013年 9月 30日現在)

収 入	献 金	15,006,627
支 出	支出合計	3,381,588
	事務運営費	30,170
	振込手数料	27,880
	事務費	2,290
	旅費交通費	790,568
	支援費(派遣者の経費を含む)	2,560,850
	経費	1,075,000
	送料	37,900
	物資購入	447,950
	「地ノ森いこいの家」支援	1,000,000
繰 越		11,625,039

J-CaRM 広島便り

ブロック・ロザリオの福音

ベリス・メルセス宣教修道女会
Sr.ジョイ ガルシア

ロザリオの祈りは、フィリピで昔から大変親しまれてきたお祈りの習慣です。深く献身的に祈って聖母マリア様を敬愛してきました。農村によっては、今なお独りで祈るだけでなく近隣や地域の家族が集まって共に祈る方法がとられていて、これをブロック・ロザリオと名づけています。聖母ご像が一、二週間の間、各々の家庭で順に廻され置かれる、マリア様を歓迎する方法です。

私は一年以上前に萩でブロック・ロザリオを始めました。多くのフィリピーナの皆さんはカトリックとしてこれを信仰生活で大変大切な祈りだと知っていましたから、積極的に応じてきてくれました。私達が祈って賛美した聖母様が、家族や地域共同体を神様ともっと深い関係に導いてくださるはず。共に祈れば家族を結びつけるだけでなく近隣や地域の絆を強めることにもなるはず。

各々の家庭が聖母ご像を順に

持ち廻り、聖母様を迎えて共に祈りと御ことばの分かち合いをするにつれて、フィリピーナが日本に来てから忘れてしまっていたこの大切な祈りに励まされ再び信仰養成されて



Sr. ジョイ、2 段目左から 2 番目

実際に長く祈ってこなかった、祈り方を忘れてしまっていたことに気づき涙する人がいました。しかしもっとも気づいてほしいことは、かれらが再び熱心な祈りに招かれて神様の御まえにどう立ち返っていくかについてです。

(次号につづく)

地区便り

伯雲ブロック

バスで行く教会行事

本年も、九月八日に雲南市にある永井隆記念館で前田司教様の司式により「永井隆博士追悼・平和祈念ミサ」が厳かに執り行われた。ミサには市や如己の会の関係者のほか、伯雲三教会や岡山教会、広島市内からの信徒約百五十名が参加し、フランススコ教皇様が呼びかけられた「シリア、中東及び全世界の平和を願うミサ」も兼ねて行われ、「永井博士が希求した「平和を」を改めて思い起こさせたミサとなった。



出雲教会での勉強会

山口・島根地区

*信仰年地区大会について

信仰年に合わせ、十月二十日(日)に「地区大会②フェスティバル」をサビエル記念聖堂と山口天使幼稚園を会場に開催。東北支援も含む食料品や物品販売、聖フランシスコ・サビエル写真展、歌やダンスなどのパフォーマンスで楽しんだ。

*地区少年の集い

「日韓青少年の集い」昨年末の「釜山教区司祭

し、バスで行く教会行事を無事終えた。

公共交通機関が不便で高齢信者が増加する伯雲地域では、ブロック内や陰陽交流にこうした借上げバスなどが有効な手段であると改めて認識した。

(松江教会 佐野卓司)

叙階式・韓国を知る旅」と八月十一日(日)〜十五日(木)にかけて実施した

「日韓青少年の文化体験」参加者の感想文をまとめ、地区内小教区や修道会、学校、教会学校リーダー、参加者へ配布した。

「親の集い」

四月に引き続き、八月二十五日(日)に信仰年第二回目の「親の集い」を開催した。今回は、講師に六甲学院教師の吉村信夫氏を招き、「家庭においての信仰継承」について分かち合った。

「親の集い」に合わせ実施した保護者対象「信仰教育についてのアンケート」のまとめは、八月初めに地区内関係者に発送した。

*信者養成研修

「祈りの体験」

九月十四日(土)〜十七日(火)に「祈りの体験集中講座」を実施。

「奉仕者養成コース」

地区事務局において、第一回目の研修を十月五日(土)に実施。清水弘神父担当。全十五回。

(事務局)

海峡からの風 30

下関労働教育センターだより

世界につながる

六月に中国地方の大学生が協力して広島でアフリカンフェスティバルを開催した。私自身、ケニアのスラムの学校支援に関わる身として、また下関市立大学の学生がリーダーとして頑張っていたので、可能な限りお手伝いをした。

が参加してくださり、ご多忙の中出張してくださった。この場をお借りして御礼申し上げます。広島学院出身の大学生も活躍してくれ、林尚志神父の講演が印象的だったことなど語ってくれた。

その実行委員だった現二年生を中心に、地方の学生が国際貢献・交流に取り組むやすい環境を築くことを目的として、ラルモニーという新しいグループを立ち上げ、早速、ケニア支援の企画を十月二十四日、広島県民文化センターで開いた。

カトリックの中では司祭や修道会、また数多の先人たちが国際協力の途を開いてくれており、力強いサポートも一般よりは得やすいと思う。

広島教区の大学生や青年も、既にある団体、特に教区にある団体に積極的に関わってくれ、また自ら新たに組織する、そんなメンバーがどんどん増え、協働できる事を願う。

(下関労働教育センター 大城研司)

カトリックではバツタンパン友の会とサラームの二団体

広島地区

九月二十二日(日)午後五時から広島市中区上幟町公園でカレライスの炊き出しが行われました。集まって来たのは広島市内で路上生活をしている人々を中心として約五十人。

炊き出しの準備をしたのは、広島学院中学校・高等学校の生徒・教員・保護者のみなさん。好天に恵まれ、ビールも提供され、参加者も準備した人もいっしょに、初秋の夕暮れのひとつきをなごやかに過ごされました。

この上幟町公園での活動は、広島市の許可のもと、月に一度のリズムで継続されています。



上幟町公園での炊き出しの様子

毎年八月の平和行事を合同で行っている日本聖公会のメンバーと、平和行事以外にも協働できることはないだろうかと話し合い、カレライの食事が始まりました。

現在は主に三つのグループが担当の責任をとっています。

今回は、広島学院が当番で、三十人以上の生徒が喜んで奉仕し、野宿労働者の「おじさん・おばさん」たちとのほほえましい交流の場面もありました。

第二のグループは、日本聖公会広島復活教会です。小林牧師自らがつくられる「特製カツレツ」は大好評です。

三番目のグループは、カトリック幟町教会の有志です。(肥塚神父)

岡山・鳥取地区

平和推進チームは六月二十九日の岡山空襲の日に「レクイエムコンサート、平和への祈り」を、七月六日には「信仰年を考える、憲法が変わったら」の講演会を開催し、八月五日と六

日には広島巡礼を行いました。十二月から教会担当冬季炊き出しが始まります。養成、きょうどう推進

チームは、教会学校リーダー養成講座を八月二十四日に行いました。講師は、玉野教会の松浦真弓さんで

「玉野教会の数年間の取り組み、現状、課題」についてでした。次回は十一月九日にシスター石澤潔子が講師となります。第三回目は

来年の一月二十五日の予定です。「初聖体の教材作り」も実行委員会を選出しました。

十月十三日には第二回地区宣教司牧評議会を玉野教会で行いました。十月二十三日、第三十三回世界連邦岡山県宗教者大会が岡山教会聖ティエゴ喜斎記念聖堂で開催されました。準備会を重ね、大会テーマは

「社会に、ぬくもりと正義を」として、平和祈願と記念講演が行われました。講演はノートルダム清心女子

大学のシスター渡辺和子理事長で、演題は、「咲くということ」でした。(岡山教会 北川弘子)

広島教区の施設 ⑬ ノートルダム清心女子大学 附属小学校

昭和四十二年に岡山で初めての私立学校として開校された本校は、現在でも県内唯一のカトリックの小学校であり、広島・倉敷の姉妹校とともに、創立者聖ジュリー・ピリアートの精神を受け継いだ心の教育を大切にしている学校でありたいと考えています。

また、国際的な修道会が学園を設立した経緯もあり、当初より英語教育に力を入れて取り組んできました。現在週二・三時間

の英語の授業があり、ネイティブの外国人教師と英語の専科教員が指導しています。英語で算数や理科の授業を行う国際コースも二〇〇三年度から開設し、帰国子女の児童や外国人の子弟の数が増えてきています。カトリック学校の存在意義を失わないよう、毎年夏には、全職員で「教育理念研修」を行い、変えてはならないもの、変えるべきものを確認し合っています。本校の強みや弱点補強策などもテーマに掲げ、「つながりを大切に作る清心小学校」というスローガンも、この研修から生まれました。

現在「宗教道徳」の授業は、修道者と担任教師が年間指導計画をそれぞれ作り、半分ずつ担当していますが、宗教教育がより生きて働くためには、児童に影響力のある担任教師が宗教教育にも関わっていきけるよう道徳授業の改善にも取り組んでいます。朝会で「今月の聖句」を順番に児童に紹介したり、朝の職員室での祈りの先唱を輪番制にしたりと少しずつ信者でない先生方にも、宗教教育に関わってもらえるよう工夫をしています。

宗教的な感性を持ち、日本人らしい心遣いのできる国際人を育成することが、「心を清くし愛の人であれ」という創立者の願いでもあり、神の望まれる生き方にもつながっていくのではないかと思っています。(校長 服部和也)



国際コース・英語で算数の授業

青少年の活動

広島教区練成会

「イエスはだれ…」
2013年8月4日～6日

*プログラム
長束黙想の家、十字架の道行
講話、プール、派遣ミサ など
*参加者 40名

今年の夏、教区の練成会の準備をさせて頂きました。このような機会を与えてくださった主に感謝します。参加してくれた子どもたち、また神父様やシスター方、保護者、信徒の皆様をはじめとして、協力、応援をしてくださった皆様に感謝します。



祇園教会での夕の祈りの様子

今回は広島県の祇園教会をお借りしての練成会でしたが、カテドラルでの平和祈願ミサへの参加などもあり、

平和の使徒という広島教区の召し出しを歩む子どもたちの成長の一助となったのではないかと思います。

年により開催地、参加人数などは異なります。様々な小教区からの参加者が集う練成会は、子どもたちが広島教区という教会の交わり、また神様との交わりを育む貴重な機会であると運営をしながら感じることができました。



「舟の右側に網を打ちなさい」

下関ブロック・イエズス会

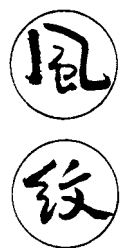
百瀬文晃神父

長いあいだ大学で働いていた私は、二年半前に下関の教会に送られて、初めて幼稚園の責任をもつことになりました。幼い子どもたちに、どのように聖書の話をしたらよいか悩んでいたとき、エ

ロンシアターが喜ばれることを発見しました。皆さまはご存じでしょうか。エプロンのポケットから次々に登場人物を取り出して、エプロンの上のマジックにとめて演じるのです。教会のご婦人方のグループが私の注文に応じて、上手に人形を縫ってくださいました。私の好きなテーマは、「不思議なすなごり」の話です。

ある日ペトロが、「私は漁に行く」と言います。仲間たちが「私たちも一緒に行く」と言って、舟に乗って出かけます。網を何度も打ちますが、何も取れませんが、日が昇る頃、「もう、あきらめて帰ろうか」と言いあつていたとき、岸辺に復活の主が立っています。「おーい、魚が捕れたか」。彼らはそれがイエスとは知らず答えます。「捕れないよ、今日はだめだ」。すると主は言いました。「舟の右側に網を打ちなさい、きつと捕れるから」。 「ほんとかなあ」と

つぶやきながら、そのとおりにすると、魚がたくさん捕れて、網を引きあげることができないほどでした。私が色とりどりの大きな魚のぬいぐるみをポケットから取りだして見せると、子どもたちが笑います。主イエスが一緒にいて、一言おっしゃれば、たくさんの実りがある、というメッセージです。 どのように外なる体が衰え、疲れることがあっても、いのちの主との出会いから、また新たな力をいただきたいと願っています。



昨年、住み慣れた土地から引越し、教会も変わりました。通い慣れた教会とは違い戸惑うこともありすが、新しい教会でも私に出来ることを見つけたと思います。今日この頃です。(よ)

第3回万葉杯
ソフトボール大会

のお知らせ

11月4日(月・祝)10時開会
場所: 芦田川河川敷、神島橋の下
お問合せ: 福山教会

TEL 084-923-0614
FAX 084-923-0615

